

マッピング技法 ～ 事例検討のための諸知識 ～

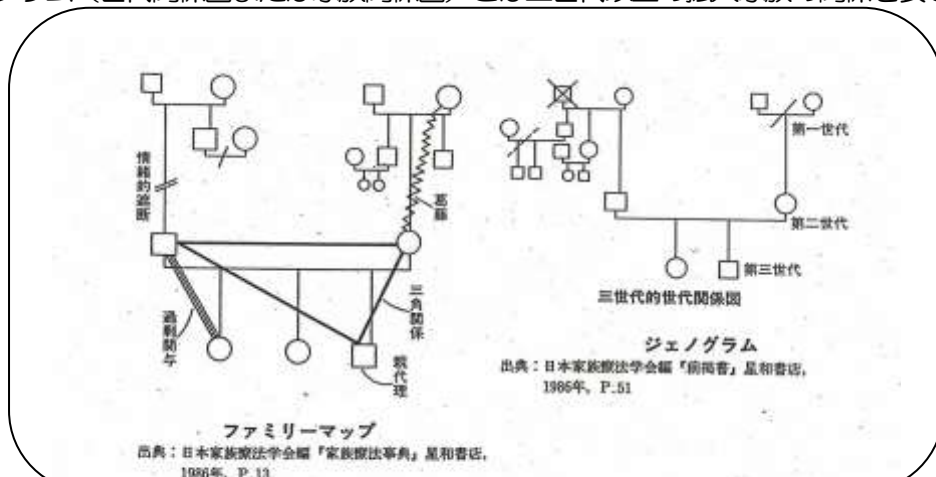
□ Mapping 「マッピング」とは

- マッピングとは、ある状況下における重要な要素間の相互関係性をいきいきと表現するためのソシオグラム（＝集団構造を把握するための手法）
- 焦点化された問題状況に対し、当該状況の改善に重要なきっかけを提供してくれる、生活環境のもろもろの要因間の関係性とその全体の相関性を地図のように表す記録法の総称。
- マッピングの作成では、一定の「記号」や「関係線」、若干の「約束事」があり、これらを上手に駆使することで文章による説明だけでは限界を伴う混沌とした諸関係の全容が一目瞭然となる。
- 利用者を取り巻く人間模様や諸機関との社会関係が、マッピングにより比較的判り易く示すことが可能となる。
- マッピング技法は、社会福祉実践においても様々な場面において活用されている。
 - 例1 多問題家族へのアクセスの一助・・・治療的要援助家族への援助において
 - 例2 家族を一つの組織として見立てる・・・個ではなく家族の関係性に着目しての援助
 - 例3 面接での利用・・・当事者も自己の全体像を把握しやすくなる
 - 例4 記録での利用・・・家族情報を文章で煩雑な説明にせず示すことができる
 - 例5 処遇や対応を検討する際の資料・・・家族問題に対する総合的アセスメントに活用
 - 例6 他の技法との互換性・・・エコマップなどの技法と連動させることで、支援の方向性や内容をより具体的に考え、実践していくことができる
- マッピング技法には、次の種類がある

「ジェノグラム：世代関係図／ファミリーマップ：家族図」と「エコマップ：生態地図」

□ ジェノグラム（世代関係図）とファミリーマップ（家族図）とは

- ファミリーマップ（家計図）とは家族構造を符号で表したもの
- ジェノグラム（世代関係図または家族関係図）とは三世代以上の大家族の関係を表したもの



■ エコマップ（図式記録法）とは

- エコマップとは、「社会関係地図」、あるいは「生態地図」と称され、対人援助活動に関する福祉支援（面接のための道具、思考のための道具）のツールとして考案された。
※ A. ハートマン（1975, USA）
- エコマップは、複雑多様な問題状況を比較的わかり易い図式に落とし込むことで、個々の要因がどのように絡み合い、問題が発生しているのかへの分析（アセスメント）と、問題状況の経過観察および状況改善に有用である。
- エコマップ自体は、簡単な約束ごとによって作成できる図式版の要約記録であり、様式面でも工夫や加除できる余地が多くあり、活用目的に応じて、いろいろな様式を開発することが可能。紙と鉛筆など、一定のもの（約束ごとを説明した書式）があれば、短時間でどこでも作成可能。
- わが国での福祉支援活動においても、エコマップはあらゆる分野において序々に活用されてきつつあり、ケアマネジメント実践でもあらゆる場面で活用することができる。

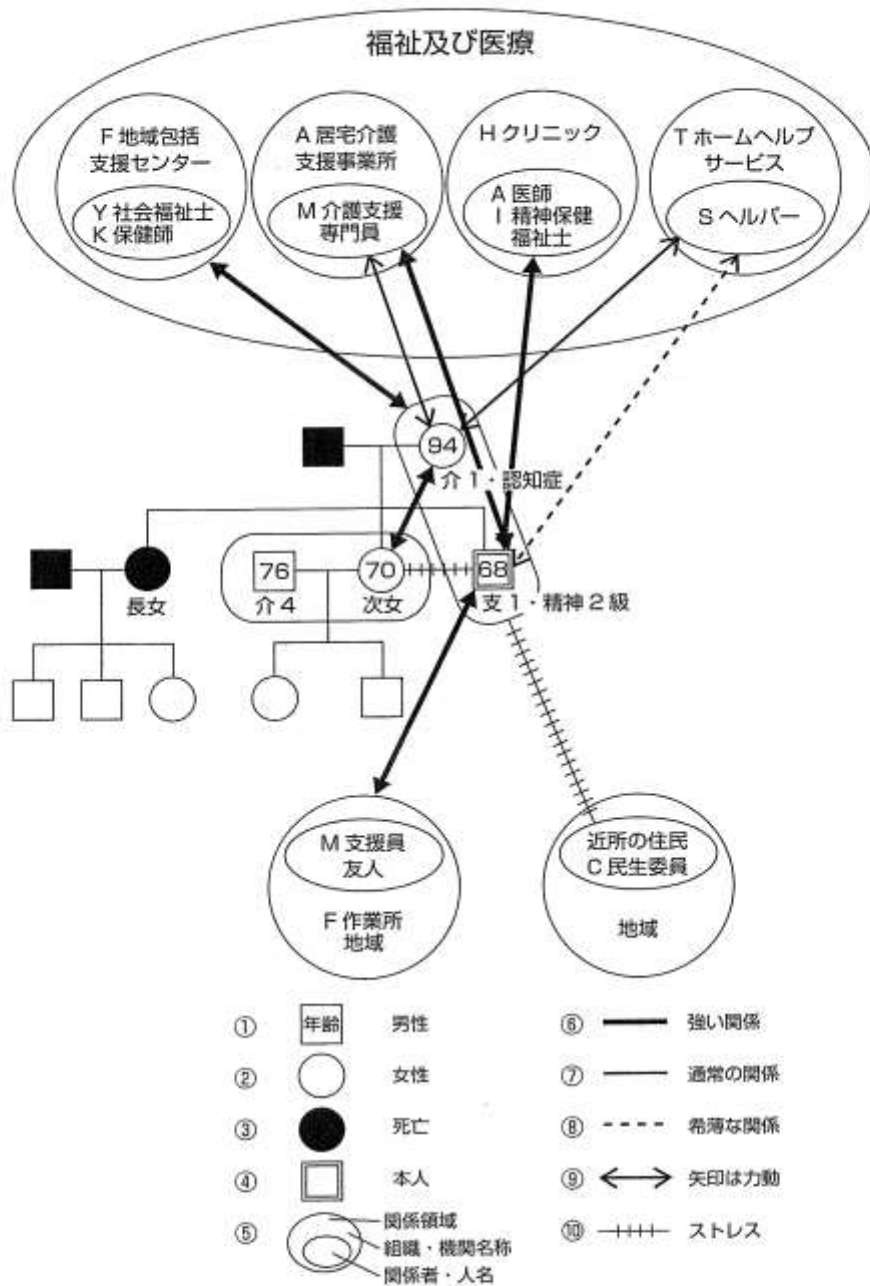
例 **面接の手段、スーパービジョン、サービス担当者会議・事例検討会、記述記録と併用**

◆ 別途資料で『エコマップの例』があります！

ジェノグラムの基本ルール

- (1) 男性は□、女性は○で示す
- (2) 死去している場合は、黒く塗るか×印をつける（■□/●○）
- (3) 事例研究の主たる対象者（本人）は、二重印にする（◎/□）
- (4) 婚姻関係は、二重線（＝）で結び、離婚はそれに斜線をいれる。
- (5) 兄弟は、出生順に左から並べる。
- (6) 同居者【同世帯】は実践でくくる。
- (7) その他、必要に応じて年齢や居住地等の事項を書き入れる。

図 2-2 エコマップの例



参考文献

「新版 社会福祉学習双書」編集委員会編『新版社会福祉学習双書 8 社会福祉援助技術論』全国社会福祉協議会、2009
 黒木保博・山辺朗子・倉石哲也編著『福祉キーワードシリーズ ソーシャルワーク』中央法規出版、2002
 「新 精神保健福祉士養成校協会」編『新・精神保健福祉士養成講座 5 精神保健福祉援助技術総論』中央法規出版、2009